

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## 高山病と関連疾患の診療ガイドライン

日本登山医学会 高山病と関連疾患の診療ガイドライン作成委員会（委員長：花岡正幸 信州大学学術研究院医学系医学部内科学第一教室）

中外医学社、2017年6月10日 初版第1刷発行

Grading Scale of Strength of Evidence

A: 良質なエビデンス

B: 中等度のエビデンス

C: 弱いエビデンス

Grading Scale of Strength of Recommendation

1: 強く推奨

2: 弱く推奨

### ■1 柴苓湯

疾患:

急性高山病

CPG 中の Strength of Evidence:

C: 弱いエビデンス

CPG 中の Strength of Recommendation:

2: 弱く推奨

有効性に関する記載ないしその要約:

急性高山病の薬物による予防の項に、下記の記載がある。

『柴苓湯などの漢方も使用されているが比較試験によって効果が確認された報告はない。』